昨年の広島韓国FORUMでは2月に勃発したウクライナ戦争に触発された厳しい国際情勢が東アジアに及ぼす影響、改善へと向かいつつあった韓日関係を検討しました。それから一年、世界と東アジアの情勢は依然として厳しいままですが、韓日関係においてはドラマチックな変化があり、韓日米3か国の連携も新たなステージに入りつつあります。

駐広島大韓民国総領事館と広島市立大学広島平和研究所が共同主催する今回の「広島韓国FORUM」は希望と憂慮が交錯する現状を検討しながら、昨年に引き続き東アジアと韓日関係の展望を描きます。

参加申し込みは11月22日(水)まで、QRコードを通じて、または電子メールで申し込んでください(送信先: eschoi12@mofa.go.kr )。
できる限り事前申し込みをお勧めしますが、当日ご参加もできます。

## 報告者プロフィール (報告順)

### 李鍾元 (リー・ジョンウォン)

1953年韓国生まれ。ソウル大学中退後、1982年来日。国際基督教大学卒業後、東京大学大学院法学政治学研究科で修士、博士号を取得。専門は国際政治学、現代朝鮮半島研究。東京大学法学部助手、東北大学法学部助教授、立教大学法学部教授を経て、2012年より現職。プリンストン大学客員研究員、北京大学招聘外国人教授などを歴任。著書『東アジア冷戦と韓米日関係』(東京大学出版会、1996)で大平正芳記念賞、米国歴史家協議会外国語著作賞を受賞。他に『朝鮮半島　危機から対話へ』(共編著、岩波書店、2018)、『戦後日韓関係史』(共著、有斐閣、2017年)、『東アジア　和解への道』(共編著、岩波書店、2016)など。

### キム・スクヒョン

東京大学大学院総合文化研究科博士(国際政治学)、東京財団東アジア政策分野客員研究員、東北大学大学院法学研究科准教授。2015年より国家安保戦略研究院。大学院在学中に小沢一郎議員の国際担当秘書を務めた。

### 孫賢鎮 (そん・ひょんじん)

神戸大学大学院法学研究科博士(法学)、韓国統一部事務官、韓国法制研究院副研究委員、2014年より広島市立大学広島平和研究所准教授。

### イ・チャンミン

東京大学大学院経済学研究科博士(経済学)、福岡県立大学人間社会学部専任講師、東京工業大学大学院社会理工学研究科助教、2014年より韓国外国語大学校融合日本地域学部教授。

### 沖村理史 (おきむら・ただし)

一橋大学大学院より博士(法学)の学位を取得。島根県立大学総合政策学部教授を経て、2019年4月から広島市立大学広島平和研究所教授。

**共同主催　駐広島大韓民国総領事館・広島市立大学広島平和研究所**